

新年を迎えて

代表取締役社長 野澤 俊太郎



新年あけましておめでとうございます。

ケミカルタイムズの読者の皆様、ならびにご執筆の先生方におかれましては、さぞかし良いお正月をお迎えになられたことと心よりお喜び申し上げます。

10年以上にも及ぶ長期の低成長経済を経て、穏やかな底離れ状態がみられた昨年は、メダル獲得37個という五輪メダルラッシュ、年間最多安打262の偉業を記録したマリナーズ・イチロー選手の活躍など国民生活に活力を与える明るい話題にも恵まれました。彼等の活躍は、日本企業の活性化にも少なからず恩恵を及ぼしたことと思います。また政府の景気月例報告でも設備投資、輸出、生産らの増加と共に個人消費の穏やかな増加となって現れつつあるとの見方が定着してきたところです。

雇用情勢には依然厳しさが残るとはいえ徐々に改善しており、韓国、中国の躍進ほか海外経済の着実な回復、関連原料価格に影響を及ぼす原油も50ドル台という記録的高騰から年末には30ドル前半台へと回復が見られるなど、今年は是非とも明るい年になるよう願っております。

一方、円高基調、主要通貨に対するドル全面安傾向、イラク中近東の情勢不安など、まだまだ直線的な景気回復には不安材料が残りますが、これまで永年に亘り整備されてきた合理化施策の効果をてこ入れにして、全般的には増益基調に転じていると申せましょう。

弊社は、昨年11月試薬メーカーとして創業60年を迎えました。還暦の文字通り、次なる新たな歴史の始まりを飾るべく今期を契機に決算期を9月から3月へと変更いたしました。弊社試薬の供給体制充実の観点より、ハード面

では中京営業所社屋、草加工場危険庫、同第二自動倉庫、東海ケミー筑波工場など新たな施設を建設いたしました。ソフト面では弊社検査部門の精度管理技術を確実に維持向上するため、ISO/IEC 17025試験所認定を取得して既に4年になりますが、その具体的事例は、本誌194号(2004. No. 4)「化学分析における基礎技術の重要性」でも一部ご紹介申し上げたところです。引き続き関連情報の連載を計画しておりますので試験検査施設の運営に携わられている皆様のご参考としてお役立て頂ければ幸いに存じます。とりわけ精度管理の具体的紹介は数が少ないとのことで、多くの企業から弊社をご見学頂き、また身に余るご好評を賜りましたこと、これもひとえに永年にわたる皆様のご指導とご鞭撻の賜と厚く御礼申し上げます。この経験と技術は、ISO/IEC17025に適合する標準液や滴定溶液はじめ具体的な製品の形にして、その供給を通じて広く精度管理の普及に努める所存です。加えて弊社ライフサイエンス部門では、ISO 13485医療機器の品質マネジメントシステムの認証を取得(2004. 12月)しました。ISO 9001をベーシックな品質マネジメントシステムとして、分野毎の製品保証に行き届いた配慮を施しながら、今後とも皆様に信頼頂ける製品供給に努めてまいります。

弊社の理念であります「社会に対して積極的に貢献する」を念頭に、平成17年度経営方針の達成に向けて、全社員一丸となり鋭意取り組む所存でございます。

皆様におかれましては、この1年が光輝に満ちた幸多き年でありますよう祈念し、新年のご挨拶を申し上げます。